

校長室だより第28号（令和7年10月8日）

6年生修学旅行の続き③

いろは坂をバスで上り、華厳の滝へ。エレベータで100mほど下り、ひんやりとした通路を通り抜けると、展望台へ。そこには迫力ある風景が広がっていました。子どもたちも暫し、言葉を失ったように大きな滝を見上げていました。

昼食を済ませ、千葉に向けて帰路につきました。約4時間のバスでの移動となります。

帰りはDVDを見て過ごす場合が多いのですが、私が乗った2号車は違いました。バスレク担当者が、なぞなぞやゲームを行ってくれたからです。

なぞなぞは簡単なものばかり。それがいいのです。なぜなら、皆が気軽に参加でき、リズムよく進行できるからです。バスの中で難しいなぞなぞが出題されたことを想像してみてください。車内がシーンとなるか、考えることをあきらめた子どもたちがおしゃべりを始めるかだと思われます。前者は、気持ち悪くなる子が出現しそうです。後者はレクがうまくいきません。簡単な問題のおかげで、誰もが手を挙げ回答します。自然と盛り上がります。

担当者はそれをわかっていて「簡単ななぞなぞ」を出題したのでしょうか。教師から指導されたのでしょうか。たとえ指導があったとしても、運営するのは簡単ではありません。いずれにしてもすばらしい。

ゲームは「クラス対抗早口言葉大会」でした。ルールがわかりやすい上、失敗が累積すると簡単な罰ゲームがあり、早口言葉を言う人にも、それを聞く人にも緊張感をもたらしました。早口言葉を言う前には全体が静かになり、成功すれば拍手が、失敗すればよい意味での笑いがきました。

担当者の仕切りが上手だっただけでなく、ゲームが進行する中で、担当者の発言に上手に合の手を入れる人物が自然と現れました。そうなると、さらにゲームは盛り上がります。

気が付くともう千葉県。あっという間の4時間でした。40年に及ぶ私の教員生活の中で、1・2番を争うすばらしいバスレクでした。

「さすが小倉小学校の6年生！」と大きな拍手を送りました。

あつという間の2日間でしたが、大きく体調を崩す子もなく、無事に帰ってくることができてよかったです。保護者の皆様、準備等様々なご協力ありがとうございました。